

暮らしやすい世の中を目指して

郡山市立郡山第二中学校 3年 物江 みのり

「支援金が入って良かった。」

母が、支援金振込のお知らせを手にして言った。私の両親は、宿泊業を営んでいる。新型コロナウイルス感染症が拡大すると、お客さんが来なくなり、収入が減ってしまった。コロナの影響により、売上が減少した場合、様々な支援を受けることができるという。学校でも、部活動の練習試合が中止になり、この先、どうなるのだろうかと思っていた。

去年は、「持続化給付金」という制度があった。今年は「一時支援金」制度があり、我が家も対象だった。緊急事態宣言に伴う外出自粛の影響で、売上が前年の同じ月と比べ、五十パーセント以上減少している事業者へ給付される制度だと教えてもらった。

さらに、給付金の申請には、確定申告の書類が必要だと知った。聞いたことがあったが、「確定申告」について調べてみた。そして、一年間の収入や支出を計算した申告書を税務署に提出し、納める所得税を確定するものだと分かった。母は、申告書を国税庁のホームページで作成している。数字を入力すると、自動計算され、前年のデータも引き継ぐので、とても便利だと話していた。

その時、私は、高齢者も作成できるのかなと思った。なぜなら、ワクチン接種の予約ができない高齢者が多いと連日報道されていたからだ。パソコンやスマートフォンを使いこなせない人は、思ったより多い。

静岡に住んでいる祖父は、農業を営んでいて、確定申告をしている。電卓で計算して、申告用紙に手書きで記入しているらしい。とても時間がかかり、大変そうだった。

今は、確定申告が電子申告でもできるらしい。感染リスクを軽減できるメリットがある。その一方で、手書きでしか申告書を作成できない人がいる現状もある。

私は、将来システムエンジニアになりたいという夢がある。今後、ますますICT化が進むだろう。誰にでも操作しやすいシステムを作りたい。誰ひとり取り残さない社会を目指し、ICT弱者を置いて行かない社会の実現の役に立ちたい。

コロナ禍で、収入が減少する人や職を失う人がいる。だから、国の税収は減っていると思った。だが、日本経済新聞に、「二〇二〇年度の税収が十九年度を上回った。コロナ禍の影響は軽微にとどまり、消費増税の効果が表れた。」とあった。収入が減る人がいる中、増える人や企業もある。今は大変でも助けてもらったら、次、誰かを支えることができる。思いがけない経済の状況や病気によって、頑張りたくてもできないことがある。そんな時、元気な人が支えるのが税の仕組みだ。この作文を書いたことで、税の仕組みの素晴らしさに改めて気づいた。

将来、私も働くようになったら、確定申告をして、税を納めよう。申告しやすい仕組みづくり、暮らしやすい世の中を目指して。